

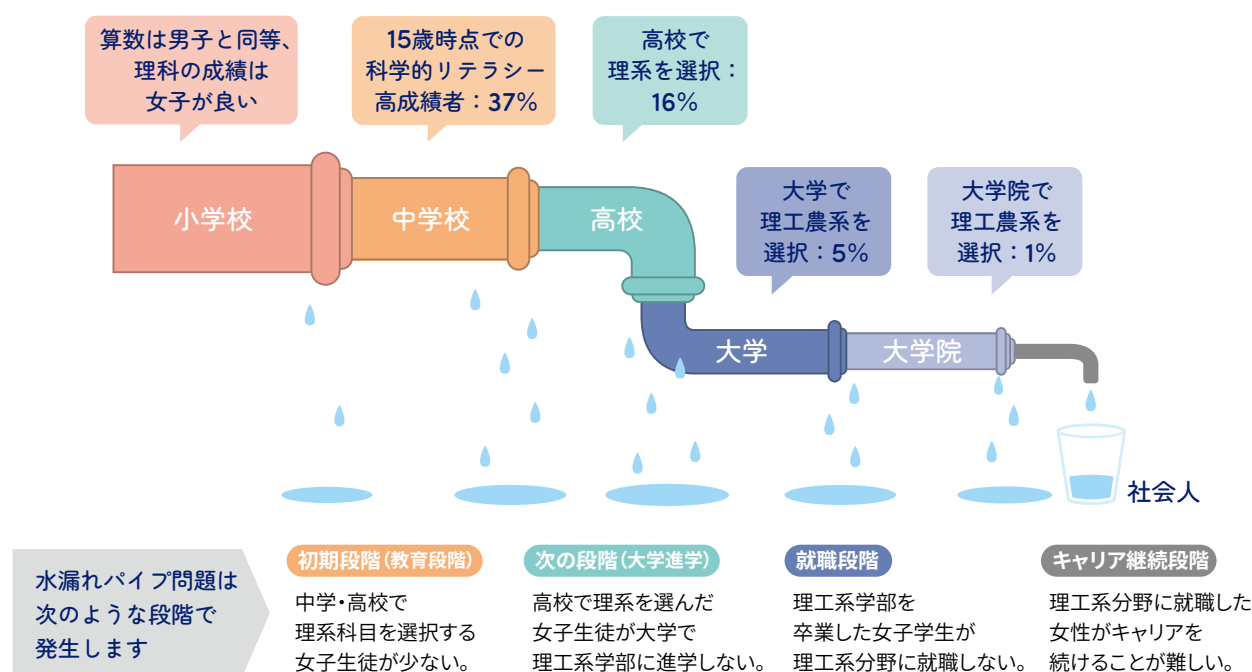


Waffle Annual Report 2025-2026

テクノロジー分野の ジェンダーギャップ解消こそ 日本の成長戦略の原動力

女子の理工系進路 水漏れパイプ問題

CHALLENGE



出典:PISA(2018)、TIMSS(2019)、内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局の資料をもとにWaffle作成

日

日本の成長戦略では今、17の戦略分野への積極的な国内投資を推進しています。その成長を真に実現するには、AIやロボット技術を担うイノベーション人材が不可欠であり、多様な視点・バックグラウンドをもつ人材こそがイノベーションの源泉となります。

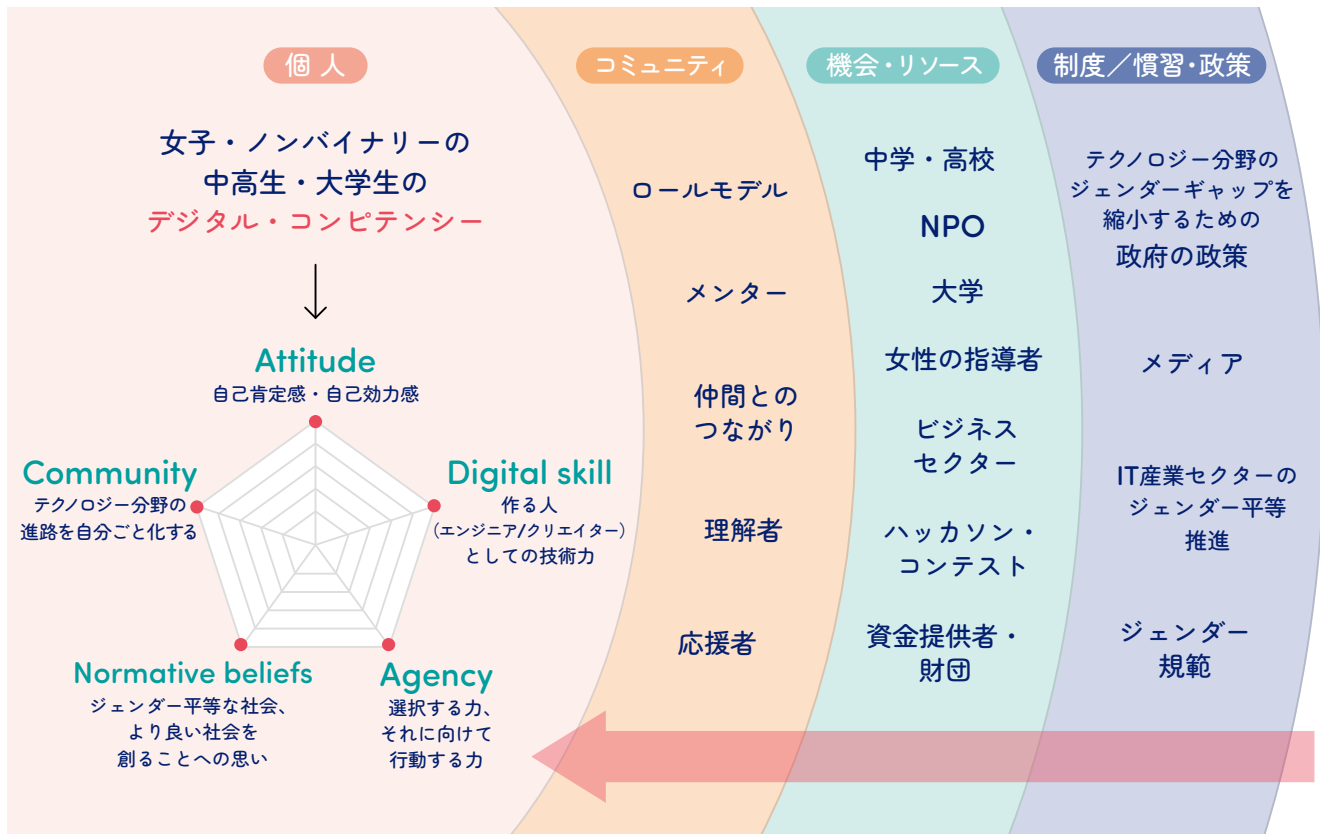
日本は、OECD（経済協力開発機構）加盟国の中で、理工系学部に進学する女性の割合が最も低い国です。日本の女子学生の学力は国際学習到達度調査「PISA」で「数学的リテラシー」「科学的リテラシー」についてトップレベルであるにもかかわらず、工学分野の大学入学者に占める女子の割合はOECD加盟国の中で最下位です。理工系を進路やキャリアとして選びにくい社会構造が、その才能を阻んでいます。理工系分野における女性が進学や就職、キャリア形成の各段階で徐々に減少

していくこの現象は「水漏れパイプ問題」と呼ばれます。パイプに流れ込んだ水が途中の穴で漏れ出し、最終的に目的地に届く水がほとんどなくなる様子に例えた名前です。

AIやロボット技術の発展が進む現代社会において、この分野に女性をはじめとした多様な人材が参入することは非常に重要です。AIが社会を変えるこの時代に、技術スキルをもち、かつジェンダーの視点から倫理的な技術活用を担う女性が全国に存在することは、産業の在り方そのものを変えます。「女性は支援するもの」という認識から、「女性は産業をつくる人材だ」というパワーダイナミクスの転換をしなければなりません。その転換を実現することが、Waffleのミッションであり、日本の成長戦略の核心です。

全てのステークホルダーに アプローチをすることで 社会全体の構造を変える

HOW WE CHANGE?



What We Do

ジェンダーギャップが深刻な日本社会において、生徒・学生たちがデジタル社会に平等に参加できるように、プログラミング技術だけでなく、5つの要素を兼ね備えたデジタル・コンピテンシーを育む教育を提供しています。

制度／慣習・政策

政策の優先度をあげるための政策提言、世論形成

「骨太の方針」などに女性の理工系進路選択の予算増加を目指した提言を行うと同時に、テクノロジー分野のジェンダーギャップが大きな社会課題であるという認識をつくるための世論形成を行う

コミュニティ

IT技術を学ぶ女性やノンバイナリーを応援するコミュニティの形成

女性やノンバイナリーでプログラミングに興味がある仲間やロールモデルに出会える場所の創出を行う。また、テクノロジー分野を学ぶことを後押しする先生・企業・保護者を増やすことで、生徒・学生が自信を持って理工系を選択できるようにする

機会・リソース

他組織でのジェンダーに配慮した機会提供への働きかけ

Waffleだけではなく、他の企業や教育現場でジェンダーに配慮した教育や機会・リソース提供が行われるように連携・協力をする

個人

デジタル・コンピテンシーを身につけられる教育

Attitude : 自己肯定感・自己効力感
Digital skill : 「作る人(エンジニア/クリエイター)」としての技術力
Normative beliefs : ジェンダー平等な社会、より良い社会を創ることへの思い
Agency : 選択する力、それに向けて行動する力
Community : テクノロジー分野の進路を自分ごと化する

女

女子やノンバイナリーの中高生・大学生たちが自身の可能性を解き放ち、情報工学・テクノロジー分野を選択するためには、個人への働きかけのみならず、社会構造の変革が必要です。したがって私たちは中高生・大学生に対して教育を通じたエンパワメントを行うとともに、生徒・学生を取り巻く社会的・経済的なシステム全体を変える戦略を

持つことで、テクノロジー分野のジェンダーギャップに根本から変化を起こすことを目指しています。そのために私たちは4つのステークホルダーそれぞれに働きかけを行っています。個人への教育、それを応援する大人のコミュニティ形成、他組織への啓発、そして政府や世論形成です。これらを同時に進めることで社会全体のシステムを変えていきます。

ステークホルダーと 共に動かした社会

THE CHANGE WE BUILT

Waffle 設立時

ジェンダーギャップに対する
社会的な認知が低い

プログラミング教育の
ジェンダーギャップ解消への
取り組みが少ない

テクノロジー分野の
ジェンダーギャップが
社会問題として
とらえられていない

Waffleの活動
ハンズオンプログラム
講演
政策提言

現在

大学、政府、メディア、企業がテクノロジー分野の
ジェンダーギャップ解消に向けた取り組みを実施

生徒・学生の進路の変化

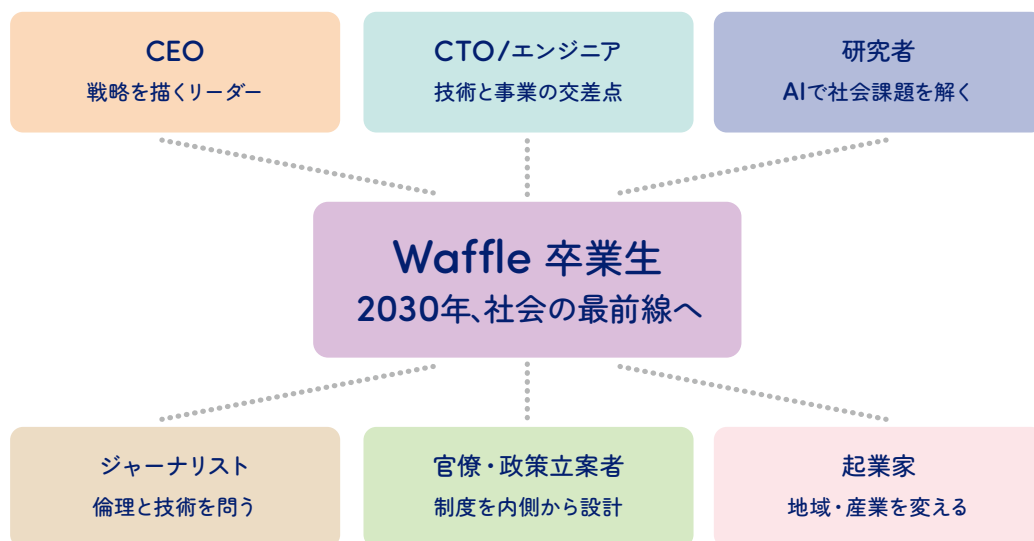
各大学の理工学部で
「多様な背景を持った者を対象とする選抜」を導入

文部科学省
「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」の
予算が増加

経済誌等のメディアが特集

2030年、Waffleが目指す姿

WHERE WE ARE GOING



理工系に進んだ者も、人文系からAIで挑んだ者もそれぞれの場所で時代を動かしている

日本では、まだまだ女性が管理職や経営層となる道が限定的であり、意思決定の場に女性が少ない構造が、男女の賃金格差や女性の課題が軽視される現状を生み出しています。

現在の不平等を残したままデジタル化が進むと、既存の格差がさらに拡大する恐れがあります。

だからこそ私たちは、女性やノンバイナリーの多様な視点や経験を取り入れて、

テクノロジー分野でイノベーションが生まれる状態をつくることで、社会の構造変革をめざします。

Waffleプログラム参加者の作品紹介

このページでは、Waffleのプログラム参加者が作成した作品を紹介します。

参加プログラム: Technovation Girls

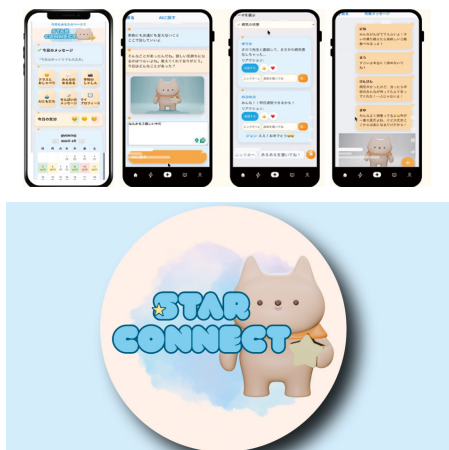
チーム名: FKA

湿地保全のため、AIで野鳥観察を自動化する「Bird Counter」と、若者向けゲーム型コレクションアプリ「Bird Quest」を組み合わせた、データと参加をつなぐ2つのアプリ



チーム名: Little Care

長期療養中の子どもが学校・友だち・感情をつなぎ留め、同じ境遇の仲間や回復者とつながることで、孤独を和らげ希望と自信を育むアプリ「Star Connect」



参加プログラム: Waffle College

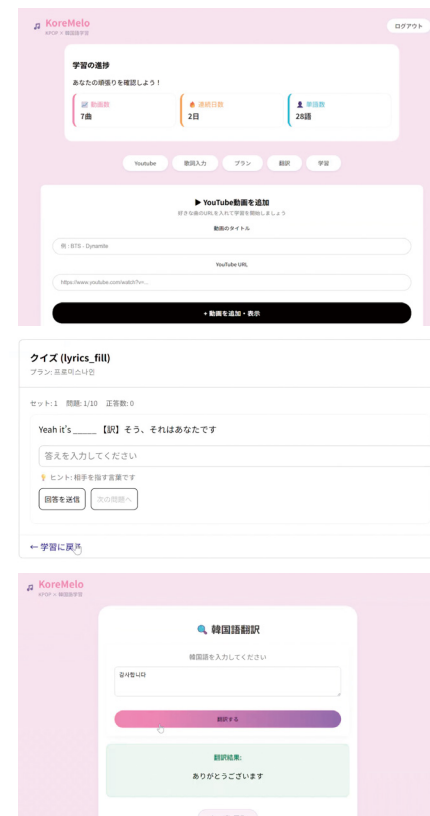
チーム名: StepSync

タイムにこだわるアスリート向けのトレーニングアプリ「SAITAN」



チーム名: Team 5

推し活を言語学習に生かせる「KoreMelo」



Waffle Club

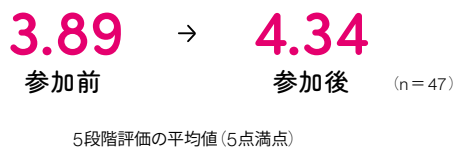
プログラミングや理系進路に関心のある女子・ノンバイナリー中高生のためのオンライン・クラブ活動。
気が向いた時だけでも継続的にでも、自分のペースで参加可能で、テクノロジーに出会った中高生が
「わたしにもできるかも」と思えるきっかけを少しずつ重ねていける場です。

〔開催概要〕

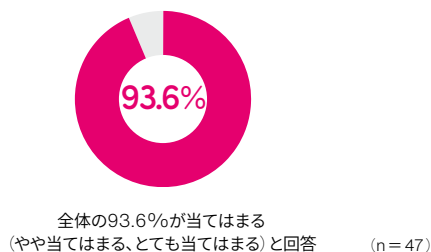
- 開催期間** 2025年4月～2026年2月
(計6回、偶数月、日曜日開催) 総参加者数90名
- 参加費** 無料
- 参加対象** 女子およびノンバイナリーの中学生・高校生
(Waffleの各プログラム参加者、新規参加者)
- 主な内容** ハンズオンでチャットアプリやminiゲームの作成などテクノロジーやロールモデルと接することができるオンラインプログラム。
- 4月：プログラミングで絵を描こう！理系プロダクトデザイナーからお話を聞こう！
- 6月：AIと推し認識ツールを作ったり、理系進路に進んだ大学生の話を聞いたりしよう！
- 8月：オリジナルのチャットアプリを作ってみよう！
- 10月：プログラミングでゲームを作ってみよう！
- 12月：クリスマスメッセージカードをプログラミングで作って友達に送ろう！
- 2月：プログラミングで絵を描こう！
先輩から進路選択のリアルを聞こう！

参加者の変化

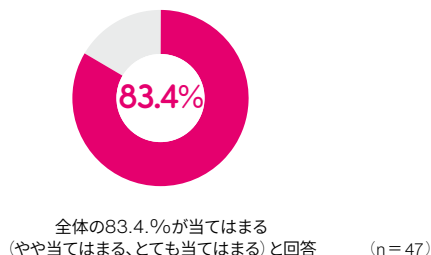
理系進路関心度



継続参加意向



自分でもプログラミングは



前から興味があったプログラミングを学べて楽しかった。
自分にもできることがわかりさらに深めていきたいくなった

「実行することが大切」という話を聞いて、くよくよ考えるよりも実行が大切だと身に沁みた

プログラミングをやらせていただけて新しいことがたくさん学べて、本当に楽しかった！いつかはこのようなものを巧みに使えたら、カッコいいなと思った！

制作中は難しいと思う場面もあったが、学校の授業で学ばないことを学べた

アプリの工夫の仕方がみんな違っていたし、自分にはない発想ばかりでとても楽しかった

プログラム総括

- Waffle Clubは、プログラミングや理系進路に関心のある女子・ノンバイナリー中高生が、自分のペースで継続的にテクノロジーに触れられるオンラインクラブです。2025年度は4月から翌年2月まで偶数月に全6回開催し、アプリ制作やAI活用、ゲームづくりなど身近なテーマで実践的な学びを届けました。
- 参加者の理系進路への関心度は3.89から4.34に向上しました。
- 参加者からは「自分にもできることがわかった」「学校で学べないことを学べた」といった声が寄せられ、自分で考え試し工夫する経験が学びへの意欲や自信につながっている様子が見られました。
- 継続参加意向は93.6%となり、Waffle Clubが安心して戻ってこられる学びの場として機能していることがうかがえます。

Waffle Camp

Waffle Campは、女子&ノンバイナリーの中高生を対象に、ウェブサイト制作を通じて、IT・理系への苦手意識をなくし関心を高めるためのプログラムです。スキルの習得だけでなく、IT業界で働く女性のキャリア講演も組み込んでいるのが特徴です。

※2026年度よりWaffle AI Changemakerとしてプログラムを刷新。

〔開催概要〕

開催期間 2025年7月1日(火)～2025年10月26日(日)

参加費 無料

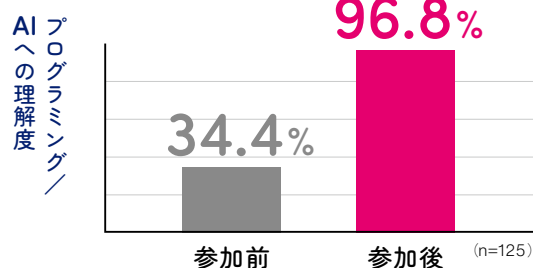
参加対象 開催都市に在住・在学の女子およびノンバイナリーの中学生・高校生
(長崎市、豊岡市、福井県、上伊那地域、長岡市、東京)

主な内容 1日でHTML/CSSを使ってオリジナルのWebサイトを制作。また、AIについての学びやIT分野で働く女性によるロールモデルの講演 他

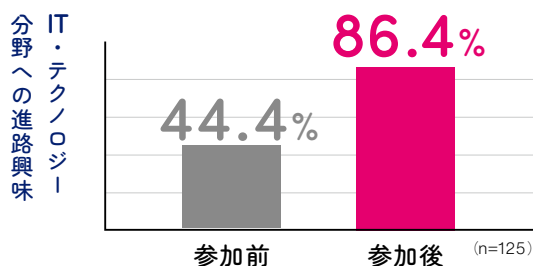
参加者の変化

参加者数

130名参加



5段階評価で4以上(肯定的な回答)と答えた参加者は、参加前の34.4%(43名)から参加後は96.8%(121名)に増加しました。



5段階評価で4以上(肯定的な回答)と答えた生徒は、参加前の44.4%(55名)から参加後は86.4%(108名)に増加しました。



迷ったり、悩んだりしたら挑戦してみたいと思った

私の好きなことややりたいことにITを組み合わせたらもっと可能性が広がるということに気づいた。クリエイティブな仕事をやってみたいけど私には向いていないと思っていたけど、意外とできるかもしれないと思った

参加者の感想

自分の進路の候補にWebエンジニアやWebデザイナーは今までなかったけど、実際話を聞いたり、実際に作ってみたりすると、視野が広がった。これからも進路を考えていくけど、その候補の中に、IT系の仕事も入れて、考えていこうと思う

ITとかAIは最初は詳しく知らなかったしわからなかったけど、今日受けてみて女性が未来を広げられることもあるんだなと思った

やってみたいけど自分にはできないと思ってたものを挑戦してみることが大事だと思った

プログラム総括

● 2025年度も三菱みらい育成財団の助成を受け、地域や経済的格差により理系・IT分野に触れる機会が限られた女子・ノンバイナリーの中高生を対象に支援を実施しました。昼食や交通費を支給し、参加しやすい環境づくりを継続しました。

● プログラムでは従来のWebサイト制作に加え、生成AIの活用に関するコンテンツを新たに導入しました。参加者は制作過程で生成AIを使いデザインのアイデア出しなどを行い、目的に応じたサイト制作に取り組みました。これにより、AIを適切に活用する力や倫理的な技術利用について学ぶ機会となりました。

● さらに、アンコンシャスバイアスに関する講義を新たに導入し、無意識の思い込みや固定観念について考える時間を設けました。これにより、参加者が性別にとらわれずIT・理系分野で活躍できるという前向きな意識を持つきっかけにもなりました。

Waffle Campの模様はこちらの動画からご覧ください



Technovation Girls

Technovation Girlsは、米国・STEM系NPO「Technovation」が主催する、次世代の女性IT起業家の育成を目的とした、世界最大級のテクノロジー教育プログラムです。Waffleは公式アンバサダーとして10年目を迎え、国内から累計2000名以上をサポートしてきました。

〔開催概要〕

- 開催期間** 2025年12月6日～2026年6月20日
2026年10月に米NPO・TechnovationによるWorld Summitがインドで開催
- 参加費** 無料
- 後援** 文部科学省/UN Women(国連女性機関)日本事務所
- 参加対象** 女子およびジェンダーマイノリティ*の中高校生
- 主な内容**
- ・アプリ開発講座（7日間）
 - ・ビジネス開発講座（4日間）
[講師] 小島 舞子（一般社団法人 Women AI Initiative Japan 理事、元株式会社クラフター 代表取締役）
 - ・日本公式ピッチイベント
日本独自で開催するピッチイベント。1次審査を経てファイナリスト10組とチャレンジステージ10組（予選で11-20位だったチーム）が、2026年6月20日に東京のイベントにて発表。
 - ・海外（2026年はナイジェリア）の参加者との交流会
開発中のアプリについてお互いにフィードバックをしよう場を提供。
 - ・東京・大阪開催 対面でのフィードバック会
米国本部へ作品を提出する前に、日本全国から社会人ボランティアメンターよりフィードバックをもらい、チームメンバーとも交流する機会を初めて創出。
- * 米国・「Technovation Girls 2026」の募集要項に沿って、「Technovation Girls」に興味のあるトランスジェンダーの方はもちろん、ノンバイナリーやジェンダー・ノンコンフォーミングを自認する方で、女性向けの環境で学習したい方を対象としています。



新しい友達が増えた！

自分の力でここまで、スライド作ったり、コード書いたりできたことが驚き。自分の力を試させてくれてありがとうございます

参加者の感想

今まで何度かプログラミングに挑戦しようと思ったことがあったけど、このプログラムに参加してはじめてコーディングを最後までやりきることができた

世界のいろいろな課題を知れた

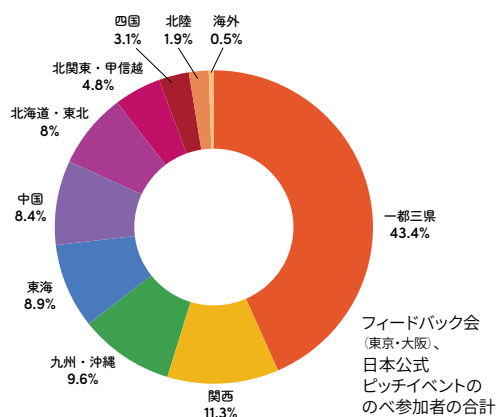
プログラムの実績

全国47都道府県から

408名

参加者数

地域別参加状況



一都三県が43.4%と最多を占める一方、九州・沖縄や東海、中国、北海道・東北などからも8～10%前後の参加があり、都市部に限らず地方からの参加も着実に広がっています。

世界130カ国・地域・3,600作品から過去最多

3チーム

ファイナリスト: infiniti girls
地域賞: FKA, Little Care

世界大会選出

プログラム総括

● 2026年度はTechnovation Girlsが日本でスタートして10年目の重要な節目の年でした。AI技術が驚く速さで進化する中で、プログラミングを完璧にできるようになることよりも、基礎を理解しつつも、いかにAIと共存し、思考し、いかに開発アプリを時間が限られた中で進化させるかに注力する初めての年になったと言えます。

● 社会人のボランティアメンターの皆さんも昨年以上にAIを必要な場所でうまく活用していく術を参加者に伝え、時代の変化に柔軟にメンタリングの方向性を変えてくださったと感じています。

● その半年間の活動の集大成となる日本公式ピッチイベントでは、ファイナリスト11組のうち、7組が2-3年継続的に参加している学生たちのチームでした。年々テクニカル面も、ビジネス開発面も進化し続けていることはもちろんのこと、このTechnovation Girlsというコミュニティを居場所として感じ、次の進路に向かう変革、成長を遂げている、この事実をより多くの新規参加者に伝え、多くの学生にとって当プログラムが進路選択の支えになるよう今後も努めていきます。

Technovation Girlsの模様はこちらの動画からご覧ください



Waffle College

Waffle Collegeは、2022年開始の大学生・大学院生向けITキャリア支援プログラムです。未経験者向けに無償で提供し、テックキャリア・エンパワーメント・リーダーシップを育みます。キックオフとテックキャリアの2つのコースを実施しています。

〔開催概要〕

開催期間 ・キックオフ:

2024年12月～2025年7月(全国8箇所・11日程)

・テックキャリアコース:

2025年8月12日～2026年1月17日(約5ヶ月)

参加費 無料

参加対象 国内外の大学・大学院・短期大学・高等専門学校・専門学校などに在籍する18歳以上の女性またはノンバイナリーの学生

主な内容 ・Waffle Collegeキックオフ

Webサイト制作体験(HTML/CSS)、IT業界で活躍する女性によるキャリアトーク

・Waffle Collegeテックキャリアコース

Pythonを用いたプログラミング講座(PBL形式でプログラミングシステムを構築)、AI授業(ChatGPT・OpenAI API活用)、PJ Week(アプリ企画立案・コーディング面接対策)、卒業ハッカソン(チームでWebアプリ開発)、ジェンダー/リーダーシップ研修、キャリア研修



すごく楽しくて文系の自分でもIT系を目指そうと思った半年で、勇気を出して参加してよかったと思った(テックキャリアコース)

大学や身の回りでは経験できないことができ、視野が広がった(テックキャリアコース)

技術支援だけでなく、キャリアについての講座がとても参考になった(テックキャリアコース)

参加者の感想

文系だからという理由で、エンジニアという職業から自然と遠ざかっていけど、今回文系からエンジニアというキャリアを持つ方からお話が聞けて、そのような進路も視野に入れてみようと思うようになった(キックオフ)

時間があつという間に感じられるほど、web作成に集中して取り組むことができ、楽しいと感じた(キックオフ)

参加者数

参加者の変化
のべ**230名**参加
キックオフ、テックキャリアコースの合計

テックキャリアコースの成果

〈2024年度〉

修了率**86%**

修了 **30名**

参加 **35名**

〈2025年度〉

修了率**91%**

修了 **42名**

参加 **46名**

Webアプリを完成

8チーム

未経験からの開発

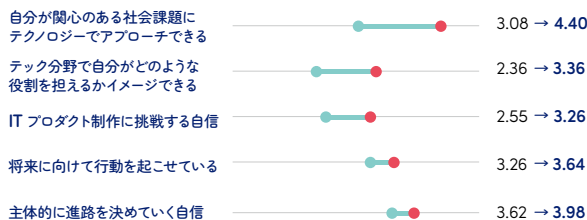
内定を獲得

5名

※2026年3月現在

今後IT・プログラミングを学んでみたいかを尋ねたところ、178名中157(88%)が「学んでみたい」と回答しました。また、Waffleの別のプログラムに参加したいと答えた参加者も144名にのぼり、短時間の体験が次の一歩への意欲につながっています。

デジタル・コンピテンシーの変化(事前→事後)



5ヶ月間のプログラムを通じて、Waffleが掲げる「デジタル・コンピテンシー」の4つの指標(Attitude・Digital skill・Agency・Community)で、参加前後で前向きな変化が確認されました。特に、「自分が関心のある社会課題にテクノロジーでアプローチできる」という自己効力感(Attitude)は大幅に向上し、修了した42名中34名(80%)に改善が見られました。

プログラム総括

● 2025年度のWaffle Collegeは、入門編の「キックオフ」と本格的な「テックキャリアコース」の2本立てで展開しました。

● キックオフは全国8箇所・11日程で184名が参加し、参加者の約70%が文系・IT未経験ながら、53%がテクノロジーを扱う自信がついたと回答。90～120分の体験でも「やればできる」という自己効力感が育つことが示されました。

● テックキャリアコースでは昨年度を大きく上回る46名が参加し、PythonによるWebアプリ開発やAI活用、卒業ハッカソンを経て、修了生の80%がITで社会課題にアプローチする自信が向上。朝日新聞社、KDDIアジャイル開発センターなどでのIT関連職種での内定も生まれており、テックキャリアへの確かな一歩を支援しています。

地域ごとにカスタマイズしたプログラム

女子&ノンバイナリーの中高生を対象に、テクノロジーに対するポジティブな気持ちを醸成するため、自分で何かを作り出せた経験、すなわち「つくる」を体験することを目的とした短時間プログラム。参加者がITに触れる最初の一歩として、「自分にもできる」「楽しい」と感じられる機会づくりを目指しました。

〔開催概要〕

参加費 無料

参加対象 開催都市に居住地がある女子およびノンバイナリーの中高生（岡山は岡山県立岡山操山高等学校の生徒を対象に実施）

参加費 76名

主な内容 各地域の特性や対象者などに合わせて、AIを活用したWebサイト制作や、音楽とテクノロジーを組み合わせた体験を行い、短時間で「つくる」ことに触れられる機会を提供しました

<東京> 2025年9月23日

東京では、Bose Japan（ボーズ合同会社・ボーズオートモーティブ合同会社）のオフィスを会場に、音楽とテクノロジーを組み合わせたワークショップを実施しました。地方からの参加者には交通費支援も行い、参加者はp5.jsを使ったリズムゲーム制作に挑戦しました。あわせて、Boseが開発する車載スピーカーの音響体験や、Bose社の女性エンジニア3名による座談会を実施。テクノロジーが身近な製品や仕事につながっていることを体感する機会となりました。

エンジニアというやはり男性というイメージが強く、あまり女性が活躍されている姿が浮かばなかったが、今回のキャリアトークを通して、ITの世界でも女性が活躍しているという実感がもてた



<長岡（新潟県）> 2025年6月7日

夏に開催されるWaffle Campに先立ち、テクノロジーに触れる前段階のプログラムを実施しました。参加者はp5.jsを使い、コードを書きながら自由に絵を描く体験に挑戦。短時間で「つくる」楽しさに触れることで、プログラミングへの心理的なハードルを下げ、Waffle Campへの関心を高める機会となりました。

前よりプログラミングをしたいという気持ちが強まった！また機会があったら参加したい



<岡山> 2025年6月17日

修学旅行（東京）への一環として、岡山県立岡山操山高等学校（共学）の生徒を対象に、日本マイクロソフト・品川本社にてWebサイト制作とAI活用を組み合わせた体験プログラムを実施しました。HTML/CSSによる制作に加え、生成AIをアイデア出しや制作の補助として活用しながら、自分の関心を形にすることに取り組みました。社員の方々によるキャリアトークも行い、「使う側」から「つくる側」への視点の変化も生まれた1日になりました。

前まではプログラミングとか難しそうで自分には絶対できないと思っていたけど今日の説明を聞いてホームページを作ってみて画像を入れたり色を変えたりしてみてもオリジナルのものが作れてとても楽しかった



<福岡> 2025年6月1日

福岡市では、エンジニアカフェを会場に、HTML/CSSを使ったWebサイト制作体験講座を実施しました。参加者はGlitchを活用し、色やレイアウト、画像の入れ方を工夫しながら、自分だけのホームページづくりに挑戦しました。株式会社ヌーラボの女性エンジニアによるキャリアトークも行い、テクノロジー分野で働く姿を身近に感じる機会となりました。

自分のキャリアの候補としてエンジニアを考えてみたいと思います



プログラム総括

- 2025年度は、Waffle Campより短時間かつ、地域の特性などに合わせたプログラムを複数回実施し、自分で作品をつくる「つくる」体験を重視しました。
- アンケートでは、プログラミング/AIへの理解・関心が参加前3.18から参加後4.18へ、IT分野への進路興味も3.21から3.92へ向上。「自分にもできそう」と感じた割合は32.8%から85.2%へ増加しました。
- 短時間であっても「つくる」体験を通じて、テクノロジーへの関心と自信、そして自分の考えを形にする力を育む機会となりました。

政策提言

政策提言への取り組み

教育実践と制度改革の両輪で、ジェンダーギャップの解消をめざす

Waffleは2019年の設立以来、IT分野におけるジェンダーギャップの解消を目指し、教育プログラムの提供とあわせて、構造的課題へのアプローチとして政策提言にも注力してきました。ジェンダー格差は、個人の努力や意識改革だけでは乗り越えられない制度的・社会的な壁が根深く存在します。そのため、私たちは全国の教育現場から得られた知見と当事者の声をもとに、政府や関連省庁との対話を重ね、制度変革に向けた提言活動を継続的に行ってきました。

骨太の方針

Waffleでは、毎年6月に政府が閣議決定する「経済財政運営と改革の基本方針(骨太の方針)」および「女性活躍・男女共同参画の重点方針(女性版骨太の方針)」への提言を重要な取り組みとして位置付けています。2025年度は、Waffleの提言がこれら両方の国家方針に明記され、理工系分野における女性の増加と、地域格差の是正を含む包括的な取り組みが国家的な課題として位置づけられました。

成果

Waffleの提言内容が政府の方針に盛り込まれました。

「経済財政運営と改革の基本方針2025(骨太の方針)」

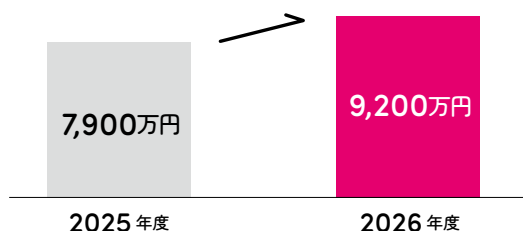
- AI分野のジェンダーバイアス防止体制
- 地域での女子中高生へのAI/IT分野への進学後押し

「女性活躍・男女共同参画の重点方針2025(女性版骨太の方針)」

- 地域での女子中高生へのAI/IT分野への進学後押し

また、これらの方針を受けて、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)による「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」の予算が、2025年度の79百万円から2026年度は92百万円へと引き上げられました。

国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)による「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」の予算



文部科学省 中央教育審議会 情報・技術ワーキンググループ

理事長の田中沙弥果が第13期中央教育審議会 初等中等教育分科会教育課程部会 情報・技術ワーキンググループの委員に選出されました。

中央教育審議会(中教審)は文部科学大臣の諮問機関で、その教育課程部会は学習指導要領の改善を審議する部会です。学習指導要領は中教審の答申をもとに改定されるため、日本全国の初等中等教育の基準を決定する重要な役割を担っています。

その中でも、情報・技術ワーキンググループは、小中高等学校を通じた情報活用能力の向上について専門的に検討する組織で、次期学習指導要領における情報教育の在り方を決定する重要な役割を担っています。2020年にプログラミング教育が必修修化され、プログラミングを経験すること自体には性差はなくなりましたが、その後の関心の持ち方には依然として大きな差があります。こうした課題を踏まえ、小中高段階から包括的な情報教育を全国の学校教育に普及させることは、日本のテクノロジー分野におけるジェンダーギャップを改善する重要な取り組みです。Waffleは、情報・技術ワーキンググループの中で、AIなどの先進技術が急速に発展する中で、包括的な情報教育の実現に向けた提言を行いました。

日本成長戦略会議・人材育成分科会

理事長の田中沙弥果が、内閣総理大臣を議長とする「日本成長戦略会議」の人材育成分科会に、高校教育改革・高等教育改革分野の有識者として参画しました。

日本成長戦略会議は、我が国の経済成長の実現に向けた国家戦略を策定する最重要会議です。特に人材育成分科会では、未来の日本を支える人材を育てるための教育改革について、政府の具体的な政策立案に向けた議論が行われます。

田中のプレゼンでは、STEM分野の女性を増やすことはイノベーションを後押しする「成長戦略上の重要課題」であり、ジェンダーギャップを解消するためには社会規範を変革するために政策として取り組むことが必要であることを強調しました。その中で、八戸高専や福井県が行っているベストプラクティスや、Waffleプログラム参加者の声、韓国・オーストラリアの法制度などを紹介し、インクルーシブなSTEM教育でジェンダーギャップを解消する政策導入を求めました。

参加者ストーリー

Waffleとの出会いが、その後の人生をどう変え、そして今、どこへ向かおうとしているのか。
Waffleのプログラムを卒業した先輩たちのストーリーを紹介します。

Miki Hayashiya

林屋 実希さん

Technovation Girls 2024 卒業生
大学2年生・情報デザイン専攻



「自分にしかできないことが、ある。」

小学生の頃、パソコンをいじる父の姿を見て「面白そう」と思ったのが、私の原点です。中学の技術の授業でプログラミングに触れて、やっぱり好きだと確信しました。でも同時に、車椅子ユーザーとして体力面やスピード面でみんなと同じようにできるかどうか、ずっと不安を抱えていました。学ぶ環境が十分に整っていたわけではなかったけれど、自分の興味に気づいてくれた学校の先生がTechnovation Girlsを紹介してくれて、不安を抱えたまま飛び込んでみることにしました。

開発のきっかけは、私自身の日々の生活の中にありました。車椅子で電車に乗ろうとすると、40分近く待たされることもあります。「自力で行った方が早いんじゃないか」と思うこともありました。みんなは普通に電車に乗れているのに——この課題をどうしても解決したくて、車椅子ユーザーと駅員をつなぐアプリ「SmooPe」を開発しました。でも、車椅子ユーザーの視点だけでは足りない

気づいて、駅員さん側の課題も知らないといけないと思い、鉄道会社に直接連絡を取りに行きました。当事者だからこそ気づけたアイデアだったし、動けた一歩だったと思います。

チームには、英語が得意な子、デザインが得意な子、何でもできる子がいて、みんなそれぞれ違うところが強みでした。私は当事者として実情を知っていることが、自分の一つの強みだったと思います。ピッチイベントでは発表中にセリフが飛んでしまう場面もあって。それでも「楽しかった」という気持ちをみんなで共有していた矢先に、Lenovo賞の受賞発表があり、慌てて壇上に上がり直したのを覚えています。全く予想していなかった受賞でした。

この成功体験が自信になって、「やりたいことをやろう」「自分にしかできないことをしよう」と思えるようになりました。大学受験でもSmooPeとTechnovation Girlsでの経験をプレゼンして合格することができました。福祉にも情報にも興味があって悩んでいたけれど、Technovation Girlsを経て「テクノロジーを学ぶことで、自分がやりたいことがより広がる」と気づいたことが、情報デザイン専攻への進学を決めた理由です。今もSmooPeを本格的に実装したいと思いながら、学び続けています。



Yasumi Matoba

的場 安美さん

Waffle College 2期生
IT企業勤務・フロントエンドエンジニア



「挑戦の積み重ねが、自身の可能性を広げる。」

大学では生物を専攻して、大学院まで進みました。医療に関する番組が昔から好きで、生命現象を基礎から学びたかったんです。でも大学でコンピュータ系の授業を受けて、プログラミングを書くのがめちゃくちゃ楽しいと気づいてしまいました(笑)。そこからITに興味を持って、Waffleに参加しました。Waffleの自由制作課題では、「推しをアピールするデザイン」を徹底的に調べて作りました。自分にとっては初めてのオタ活です。自分の得意なことのできるこの達成感は、最高でした。

Waffleに参加するまで、就職は「生物専攻だから医療系で統計を使う仕事」だと思っていました。でもITにはいろいろな分野があって、アプリ開発を学んだことで、自分が本当に好きなことが見えてき

ました。技術は、やりたいことを実現するための手段。そう思えてから、選択肢が一気に広がりました。卒業制作では攻略メモアプリを、別のハッカソンでは「TOEIC勉強×ソシャゲ」をかけ合わせたゲームを開発して、それが高く評価されました。自分がやりたいことを形にできて評価された経験は、今でも大切な宝物です。

今は、Waffle Campで講師・メンターとして後輩を育てることも関わっています。プログラム前は「できるか不安」だった参加者が、終わったあとに「来てよかった!」と言ってくれる瞬間が、本当に好きです。その経験を通じて、自分の好きなITに興味を持ってもらいたい、エンジニアをもっと増やしていきたい。そんな気持ちが芽生えてきました。それが会社選びの軸のひとつになり、エンジニアを育てる文化がある今の会社を選びました。やってみたいことをやってみる。その繰り返しで、今の自分を作っていると思います。近々ゲームジャムにも参戦予定です。社会人になっても、挑戦はまだ続きます。



Kokoro Kanzaki 神崎 心さん

Technovation Girls 2024 卒業生
静岡大学 情報学部 情報科学科1年生



「チャンスがあるなら、全部やってみる。」

もともと国語が得意で、「自分は文系寄りかな」と感じていました。進学した高校は第一志望ではなかったけれど、気づいたら、そこで出会ったものが今の自分の土台になっていました。工業高校への進学も、Technovation Girls への参加も、最初のきっかけは母です。ネットでいろいろと経験になりそうなものを探してくれていて、「これ興味ない？」って紹介してくれるんです。プログラミングは全くの未経験、軽い気持ちからのスタートでした。

Technovation Girlsではコーディング担当として、車椅子ユーザーと駅員をつなぐアプリ「SmooPe」の動く部分を作り上げる役割を担いました。使い方が全然わからなくて、直しても「あれ、また動かなくなった」みたいなことが多くて。締め切りギリギリまでチームメンバーの林屋さんと通話をつながながら「終わらないかも、ヤバイ」ってずっとやっていたのが、辛かったけどすごく楽しくて、いい経験でした。そして全国からの応募の中からファイナリストに選出されて、東京でのピッチイベントに行くことになりました。本当に衝撃で、急いでスクリーンショットを撮っていたら、みんな「え？え？」みたいな反応で(笑)。迎えた東京でのピッチイベントでは、企業賞であるLenovo 賞をいただくことができました。

Technovation Girlsでの経験が最も大きく変えてくれたのは、プレゼンへの向き合い方でした。3分間の発表を何度も練習して、大勢の前で話し続けたことで、発表する時だけ本当に別の人格になれる感じがして。緊張はするけど、自分の中で100%でいけるようになって。そこから人前で何か出すことが結構好きになりました。毎回3分びつたりと収められるようになって、発表が今では自分の強みになりました。この経験のおかげで、大学への推薦入試も突破できました。

SmooPeを開発する中で、お金のこと、企業との連携、ビジネスの仕組みを初めてリアルに考えました。もともとずっと起業に興味があったので、「こういう感じで社会って成り立ってるんだ」というのを初めてリアルに考えることができました。アプリ開発なら選択肢を広げられると思ったことが、情報系に進んだ一番の理由です。Technovation Girls終了後も、学校の課題研究でSmooPeのテーマを引き継いで、テキストコーディングで一から作り直しました。林屋さんに使ってもらおうと思って、高校3年間、開発を続けました。「テクノロジーと起業がつながる」という気づきを胸に、今は静岡大学情報学部で学びながら、起業家育成プログラムへの参加も見据えて動き続けています。



※神崎さんは、林屋実希さんと同じチームのメンバーです。二人はSmooPeというひとつのアプリを、それぞれ異なる立場から支え合っていました。

Kanoko Kimoto 木本 佳乃子さん

Technovation Girls 2025 卒業生
(文部科学大臣賞受賞)
慶應義塾大学 環境情報学部 1年
Waffleインターン



「目に見えない財産が、今の自分をつくっている。」

私たちは「E-support」というチームで、認知症予防のためのAIチャット日記アプリ「DiaLink」を開発し、2025年度のTechnovation Girlsで文部科学大臣賞をいただきました。そのときのことを振り返ってみると、自分が得られた一番の財産は、賞そのものじゃなかったなと感じています。一緒に駆け抜けてきた仲間、仲間と過ごした時間、共有してきた気持ち。プロダクトを一つ作り上げるまでには、本当にいろんな過程がありました。

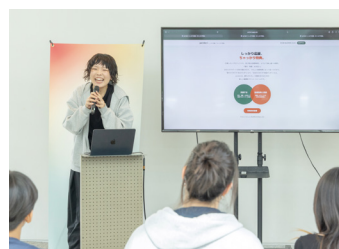
それ以外にも、私たちの可能性を信じて能力を引き出そうとしてくれた、Technovation Girlsのメンターや運営の皆さんからの信頼、期待。そして、企業賞という形で大人から受け取った承認や保証。どれも、Technovation Girlsに参加したからこそ得られたものばかりでした。目に見えないその財産をこの場でいただけたからこそ、私は情報系の学部に進学するきっかけをもらうことができました。

今はWaffleのインターンとして、Technovation Girlsの運営にも携わせてもらっています。参加者だった自分が、今度は支える側に回っている。その巡り合わせを、とてもうれしく思っています。

今は、AIを活用したアプリやサービス開発を通じて起業を目指す女子・ノンバイナリー向けのプログラム「Waffle Empower Next Program」にも参加しています。大学の授業や自分の時間を使いながら、介護に関わるサービスやプロダクトの立ち上げに向けて、引き続き開発を続けているところです。

結果として賞という形で目に見えるものが出ることもありますが、それ以外にもプログラムに参加した皆さん一人ひとりが得ているものがきっとあります。そこにも目を向けながら、これからなりたい自分になれるように、作りたい社会を作っていけるように、これからも進んでいってほしいと思っています。

自分で最初から道を切り開くのは大変でも、誰かが先に歩いた細い道があるだけで、次に歩く人はずっと歩きやすくなる。私自身、先に挑戦してきた人たちに励まされてきたからこそ、今度は自分が誰かにとっての「先を歩く人」になれたらと思っています。



Waffleをサポートしてくださる 企業からのメッセージ

サポーター企業 1

NTT株式会社

<https://group.ntt/>



大西 佐知子 氏

NTT株式会社
常務取締役 常務執行役員
CCXO Co-CAIO

「挑まなければ景色は変わらない」をキャッチコピーに、通信の枠を超えて社会課題の解決に挑み続けるNTTグループ。マネジメント層から現場の社員まで、グループ一体となった多岐にわたる形でWaffleを支援してくださっています。



Waffleを知ったきっかけは、ダイバーシティ推進に関するイベントでした。Waffleの社会人メンターを務めるメンバーから活動の話を聞き、その意義に深く感銘を受けたことを覚えています。代表の田中さんとお会いした際には、アンコンシャスバイアスが女性の可能性を縮めてしまうという、私自身がかねてから感じていた課題意識と同じ観点をお持ちで、強く共鳴しました。

私は現在、NTTグループ全体の成長戦略の源となるような新しい事業を創造していく役割を担っています。AIによって誰もが同じような情報を得られる時代に、違いを生み出すのは一人ひとりの価値観や経験から出てくるアイデアです。新しい価値創造には、多様な人材の力が欠かせません。そう考える背景には、私自身の経験もあります。2回の育児休職を経て、ライフステージとキャリアのあり方に悩んだ時期もありましたが、むしろそうした経験が新たな事業開発やビジネスシナリオに生きてくることを実感する場面も多くありました。その経験を後輩の女性社員に還元したいと考え、現在は女性役員の有志による活動を通じて、キャリアデザインのラウンドテーブルやメンタリングにも取り組んでいます。

NTTグループでは、多くの社員が自主的に Technovation Girlsのメンターとして参加しています。NTTドコモをはじめグループ各社から集まったメンバーが、活動を通じて学生から学び、メンター同士で切磋琢磨しながら視点を広げています。社員たちの目がキラキラと輝いている姿を見て、学生だけでなく社員自身もエネルギーをもらっていると感じ、

うれしく思っています。地方の学生への参加の呼びかけから当日の運営まで、全国で事業を展開するNTTグループの強みを活かし、社員が多岐にわたる場面で関わっています。当社グループ内で今まで接点のなかったメンバー同士が、Waffleを通じてつながっているのもありがたいことです。

審査員を務めた Technovation Girlsでは、身の回りの課題に気づく着眼点と、それをITやAIで解決できると実感するプロセスに大きな価値を感じました。

ITは理系のもの、という思い込みをしていないでしょうか？ 私たち企業側も、人材採用・適性、任用等において、アンコンシャスバイアスがかかり、可能性を狭めていないか、常に問い直す必要があると感じています。

AI時代に重要なのは、答えをそのまま受け取るのではなく、この答えでよいのか、なぜこの答えなのか、と疑問に持ち、問う力です。好きなことから深く掘り下げて、どんどんチャレンジしてほしいと思います。その中で、NTTグループも一緒に社会課題を解決し、新しい価値を創造できる企業だと感じてもらえたら嬉しいです。今後は、まだWaffleの活動知らない学生たちにもその輪が広がるよう、裾野を広げる取り組みを一緒にしていきたいと思っています。

BIPROGY株式会社

<https://www.biprogy.com/>

川端 絵美 氏

BIPROGY株式会社
人的資本マネジメント部 部長

ユニアデックス株式会社

<https://www.uniadex.co.jp/>

杉浦 尚子 氏

ユニアデックス株式会社
人的資本マネジメント部
上席スペシャリスト DE&I推進

「先見性と洞察力でテクノロジーの持つ可能性を引き出し、持続可能な社会を創出します」をパーパスに掲げるBIPROGY株式会社と、そのグループ会社であるユニアデックス株式会社。ICTを事業の核に据える両社が、次世代の女性テクノロジー人材の育成とジェンダーギャップの解消に向けて、グループ一体でWaffleを支援してくださっています。

娘

がこの春、理系学部に進学しました。高校時代にSSH（スーパーサイエンスハイスクール）で研究に打ち込む姿を間近で見ましたが、そうした場における女子の少なさにはずっと違和感を覚えていました。学力面では男女差はないのに、進学の段階で理系を選ぶ女子が極端に少なくなる。その落差には、社会構造的な背景があると感じています。

当社グループはICTを事業の核に据え、テクノロジーを通じて社会課題の解決に取り組んでいます。不確実性の高い時代に新たな課題と向き合うには、多様なバックグラウンドを持つ人材の力を結集することが不可欠です。そのため、グループ会社のユニアデックスとともにWaffleへの支援を決めました。次世代の女性テクノロジー人材の育成は、人的資本マネジメントの観点からも当社グループが果たすべき重要な役割です。今後は当社グループの女性エンジニアが学生にとって具体的なロールモデルとなれる機会をつくっていきたいと考えています。自分が本当にやりたいことをワクワクしながら追求できる社会と企業でありたい。その思いを胸に、テクノロジー分野を目指す学生たちを応援していきます。

私

は迷わず理系を選びましたが、母校の女子校では当時、理系を選択した生徒は全体の約1割でした。

現在も3割程度と聞いており、まだまだ少ないと感じています。チャレンジしたいのに環境が許さなかった、あるいは選択肢が限られていたために諦めてしまうということをなくしたい。その思いから、BIPROGY 社外取締役 大崎 麻子さんとの出会いをきっかけにWaffleを知り、支援を開始しました。

昨年度は、当社の施設でWaffle Collegeの同窓会・修了式やTechnovation Girlsのフィードバック会など、複数のイベントを開催しました。入社4年目の当社女性エンジニアが自身のキャリアを語る場では、「やればできる」という気持ちを学生に持ってもらうと、ICT初心者から始めていろいろな業務を経験しながら資格を取得し、充実しているキャリアについて発表しました。また、フィードバック会では6名の社員がビジネスメンターとして参加し、学生の熱意や前向きさに触れたことは、私たちにとっても大きな刺激となりました。こうしたWaffleの活動に関わることで、学生だけでなく社員も一緒に成長できると実感しています。やりたい、やってみたいという想いを大切に、これからも挑戦される学生の皆さんの一歩を後押ししていきたいと思っています。



グローバル連携

Waffleは、活動のインパクトを大きくするために、海外の団体との意見交換や連携を積極的に進めています。

世界経済フォーラム 年次総会（通称ダボス会議）に参加

代表の田中が2024年に世界経済フォーラムのYoung Global Leaderに選出されたことを受け、ダボス会議に参加しました。世界有数のAI研究者や、諸外国の教育大臣から、AIが教育に与える影響について聞くことができました。世界で初めてK-12でAIリテラシーを公教育で義務付けたUAEの教育大臣から、リテラシー教育の重要性や、AI時代に身につけるべきコンピテンシーを直接聞き、Waffleのプログラムの見直しにも生かしています。



オーストラリアで教育省や関係者と意見交換

ニューサウスウェールズ州教育省(NSW Department of Education)やニューカッスル大学、Science & Technology Australiaを訪問し、STEM教育とジェンダー平等に関する取り組みについて、ディスカッションを行いました。ディレクターの森田が、2024年に参加した米国国務省主催のInternational Visitor Leadership Program (IVLP)を通じて得たネットワークをきっかけに実現しました。入学前だけでなく入学後の伴走支援の重要性、心理的安全性の高い学びの場づくり、教員研修とカリキュラム改革を一体で進める必要性、政策KPIとデータに基づく評価の重要性といった点が、改めて浮き彫りになりました。また、STEM分野の女性・ノンバイナリーを増やすためには「入学前だけ」「在学中だけ」と支援を区切るのではなく、途切れない支援の設計こそが重要であるという示唆を得ました。



<台湾>



台湾教育部国民及び学前教育署の教育関係者やユース代表の皆さんと、ジェンダー平等とSTEM教育について意見交換を行いました。元高校教師、市政府の協力委員、人権教育委員会代表、人権団体で活動する方、大学で子どもの権利擁護団体に所属する学生など、ジェンダー平等や若者政策、教育分野で活躍する多様なバックグラウンドを持つ方々が集まりました。

<韓国>



東北大学DEIシンポジウム「科学技術分野の女性人材育成をどう加速できるかー日韓比較から考える課題と展望ー」(2025/11/20ハイブリッド開催)に代表田中が登壇しました。基調講演者である韓国科学技術ジェンダード・イノベーションセンター(GISTeR)のHeisook Lee氏から、韓国の政策についてお話を伺いました。

<フィンランド>



駐日フィンランド大使館のご協力をいただき、国際女性デーのイベントを開催しました。タンヤ・ヤースケライネン大使から、フィンランドのジェンダー平等に関する取り組みを共有いただきました。また、テクノロジー分野でのジェンダー平等をテーマに、アカデミア、企業、政府の各界の第一線で活躍するパネリストの皆さんにご登壇いただきました。

各国からの学びをもとに政策提言を実施

STEMのジェンダー平等施策を進める他国の事例から学んだ内容をもとに、日本で必要とされる政策をまとめて赤澤経済産業大臣や経済産業省、文部科学省、内閣府に提言を行いました。

提言書はこちらからご覧いただけます。



メディア掲載・登壇

〔主要メディア掲載〕

2025年4月	ネット	共同通信「ジェンダー平等へ行動を ウーマンズパビリオンで対話企画」
	ネット	Lenovo StoryHub「Empowering Japan's next generation with Lenovo's support for STEM education for girls」
2025年5月	新聞	朝日新聞「育休明けての万博、女性館で考えた子どもたちのこと」
	新聞	産経新聞「【いのち×世界 万博テーマウィーク】(6) 声を上げ、女性も一歩を」
2025年6月	ネット	Lenovo「レノボ、未来の日本を担う女子たちのSTEM教育をサポート」
	新聞	信濃毎日新聞デジタル「「努力はこれからもちっと評価される？」アプリ開発、賞もらった長野市の女子高生が気にする「ガラスの天井」」
2025年7月	テレビ	長崎国際テレビ「世界に1つだけのウェブサイトを「初めて知ることたくさん！」中高生がホームページ制作に挑戦《長崎》」
2025年8月	雑誌	Forbes JAPAN 2025年8月号 第一特集「10代と問う『生きる』『働く』『学ぶ』」
2025年9月	雑誌	日本女性学習財団 月刊『We learn』2025年9月号「JAWE + キャリア支援デザイナー」
2025年10月	新聞	信濃毎日新聞「〈Going マイウェイ 首都圏発〉(41) 海外赴任のチャンスなのに「産み時逃す」？ 上田市出身の女性エンジニアが感じたジェンダー」
2025年11月	ネット	共同通信 OVO「【はばたけラボ インタビュー 先輩に聞く】 デジタル×女子は未来のゲームチェンジャー NPO 法人 Waffle 理事長の田中沙弥果さん」
2025年12月	新聞	毎日新聞「「理系は無理」「高学歴は結婚できない」女子への偏見が阻む理数教育」
2026年1月	雑誌	Forbes JAPAN「発表! 「Women In Tech 30」2026 女子中高生×「Women In Tech 30」」
2026年3月	新聞	毎日新聞「日本の理工系女性、なぜ少ない？ フィンランド大使館でイベント」
	ネット	ELLE Japon「【国際女性デー 2026】今日からできる？ジェンダー平等のためにアクティビストたちがとった"はじめての一歩"」
	雑誌	Forbes「GEORGIA Georgian and Japanese Organizations Unite Forces After Davos26, to Empower Women in AI Worldwide」
	ネット	ETIC. Medium「TRAILBLAZER: Introducing Sayaka Tanaka, CEO, Waffle」
	ネット	東京都子供政策連携室 公式YouTubeチャンネル「田中沙弥果 未来へ羽ばたくあなたへ グローバルリーダーインタビュー」

総掲載数

Web:236件、新聞:10件、雑誌:4件、その他4件

※詳細はこちらをご覧ください。



〔主要登壇・講演〕

2025年4月	日本科学教育学会 男女共同参画ワーキンググループ シンポジウム (ディレクター森田登壇)
2025年4月	フィガロジャポンと考える、未来のメディアと女性の働き方のカタチ。(大阪・関西万博) (理事長田中登壇)
2025年6月	Women Tech Terrace (ディレクター森田登壇)
2025年10月	新公益連盟 COMPASS (理事長田中登壇)
2025年10月	国立長野工業高等専門学校 4学年対象特別講演会 (ディレクター森田登壇)
2025年11月	東京ウィメンズプラザフォーラム「ジェンダー平等：未来を創る力」(理事長田中登壇)
2025年11月	東北大学 DEI シンポジウム「科学技術分野の女性人材育成をどう加速できるか 一日韓比較から考える課題と展望」(理事長田中登壇)
2025年12月	外務省主催 ジェンダー次世代フォーラム「ジェンダー平等への道筋：若者の視点と行動」(理事長田中登壇)
2026年1月	日本産業技術教育学会 第3回 Tech 女子会 in 群馬「「今のあなた」が誰かのロールモデル」(ディレクター森田登壇)
2026年1月	NPO サポートセンター「10代と20代のためのNPOキャンパス」(理事長田中登壇)
2026年2月	在大阪スイス領事館「Davos 2026 Debriefing」(理事長田中登壇)
2026年3月	デジタル学園祭「第3回全国情報教育コンテスト」(カリキュラム・マネージャー鳥井登壇)

支援企業・団体

日頃より、Waffleの活動をご支援いただいている企業・団体の皆さまに、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。
一部となりますが、ご支援をいただいた企業・団体の皆さまをご紹介します(順不同)。

[パートナー企業・団体]

メットライフ財団

公益財団法人みらいRITA

NTTグループ

ユニティ・テクノロジーズ・ジャパン株式会社

BIPROGY 株式会社

アプライド マテリアルズ ジャパン株式会社

Bose Japan (ボース合同会社・ボースオートモーティブ合同会社)

株式会社ヌーラボ

セーバー技研株式会社

合同会社 esa

一般財団法人三菱みらい育成財団

レノボ・ジャパン合同会社

株式会社セゾンテクノロジー

株式会社セールスフォース・ジャパン

ユニアデックス株式会社

サイボウズ株式会社

TokyoDev 株式会社

タカノ株式会社

Shopify

キンドリルジャパン株式会社

一般社団法人国際ボランティアグループ

株式会社日本総合研究所

株式会社ブロードリッジ・ジャパン

デロイトトーマツ グループ合同会社

株式会社サイバーエージェント

キャップジェミニ株式会社

株式会社ヤマウラ

Dropbox Japan 株式会社

[協力企業・団体]

iamtheCODE

株式会社永和システムマネジメント

気仙沼市教育委員会

株式会社ソニー・インタラクティブエンタテインメント

東北大学DEI推進センター

富士通株式会社

メットライフ生命保険株式会社

United Way Worldwide

アマゾンウェブサービスジャパン合同会社

EDOCODE 株式会社

気仙沼市立月立小学校

駐日フィンランド大使館

豊岡市

プライムプラネットエナジー & ソリューションズ株式会社

モルガン・スタンレー・ホールディングス株式会社

横河レンタ・リース株式会社

Women In Tech Japan

上伊那広域連合

J.P. モルガン

東京都

株式会社PR TIMES

特定非営利活動法人みんなのコード

公益財団法人山田進太郎D&I財団

多様な支援方法のご紹介 /

Bose Japan



〈 物品・資金両面での支援 〉

製品提供とご協賛の両面でご支援いただきました。「テクノロジーと創造性でひらくサウンドの世界」をテーマに、同社オフィスで共催イベントを実施。中高生向けの製品体験やプログラミングワークショップ、女性エンジニアのキャリアトークを通じ、音技術の面白さとエンジニア職への理解を深めました。

モルガン・スタンレー・ホールディングス株式会社



〈 ボランティアでの支援 〉

社員ボランティアの皆さまに、Waffle Collegeでのアプリ案フィードバックやLeetCodeペアプログラミング修了式への参加を通じて受講生を支えていただきました。また、Technovation Girlsではメンターとしてアプリ開発と英語発表をサポートいただきました。

富士通株式会社



〈 メンタリング・技術提供支援 〉

メンタリングとAI技術提供の両面でご支援いただきました。Technovation Girlsでは、社員の方にテクニカルメンターとして参加いただき、同社のAIサービスもご提供くださいました。参加する中高生のチームが最先端の技術環境のもとでアプリ開発に挑戦できる体制を、人材と技術の両輪で支えてくださいました。

Shopify Japan株式会社



〈 物品での支援 〉

テクノロジーを学ぶ女子・ノンバイナリーの若者たちにより良い学習環境を届けたいというお気持ちのもと、20台のノートパソコンをご寄贈いただきました。ご寄贈いただいた機材は、プログラムやワークショップを通じて大切に活用させていただいています。

Waffleへのご支援(企業・団体向け)

ご協力方法 (内容の一例)

1

ボランティアでの支援

メンターや
事業運営サポート、
広報協力など

2

物品での支援

機材や製品の貸出
寄贈、会場提供

3

資金での支援

年間協賛、
助成金、寄付

4

物品・資金の両面支援

イベント共催、
製品・会場提供の
組み合わせ

※P.18「多様な支援方法のご紹介」に事例も掲載しています。あわせてご覧ください。

Waffleへのご支援(個人向け)

Waffleへのご支援

あなたの一歩が、誰かの「できた!」を生み出す 一緒に「可能性のドア」を開いていきませんか?

Waffleは、教育と政策提言の両面から、テクノロジー分野のジェンダーギャップ解消に挑戦しています。

この活動を支えているのは、生徒・学生に直接寄り添うメンター、専門スキルを活かすプロボノ、

そして寄付というかたちで応援してくださる、一人ひとりの個の力です。

Waffleとの関わり方

関わり方は、ひとつではありません。あなたに合ったスタイルで、Waffleの活動に参加いただけます。

1

寄付で支援する

単発でも、継続でも。
あなたの寄付が、
生徒・学生の挑戦を直接支えます。

年間3,000円以上の寄付は、Waffleの「認定NPO法人」取得にもつながります。認定NPOになることで、寄付控除などの税制優遇が受けられるようになります。

オンライン寄付はこちらから
<https://syncable.biz/associate/555>



2

ボランティアとして関わる

生徒・学生とオンラインで繋がり、
AIやプログラミングの
学習をサポートします。

メンター
1回1~2時間のメンタリングからTechnovation Girlsのような4ヶ月間の長期プログラムでの伴走まで。

プロボノ
デザイン・広報・法務など、ご自身の専門スキルを活かした支援。

学生ボランティア
現役の大学生・高専生がイベント運営や後輩の支援に関わる。

〈参加ボランティアの声〉

「自分の知識が誰かの役に立っただけでなく、
「学生からも学ぶことが多く、キャリアを見つめ直すきっかけになった」

3

応援・拡散する

関わり方に迷っている方は、
まずここから。

Waffleの公式SNSをフォロー・シェアする。
友人など身近な人たちにWaffleのことや
プログラムを紹介する。



Instagram
[@waffle_org](https://www.instagram.com/waffle_org)



X
[@Waffle_org](https://twitter.com/Waffle_org)



その他のSNSは本誌裏面に記載しています。

Waffleの活動メンバー 2026年8月現在

多様な立場のメンバーが、それぞれの形でWaffleの活動を支えています



正職員・業務委託: 15名
インターン: 13名
プロボノ: 13名

その他、300名以上の方が年間を通してWaffleのボランティアメンターとして関わっています。

Waffleは 全国の中高校生・大学生の
挑戦に伴走し

一緒に未来をつくる仲間を求めています

あなたの一歩が
次の世代の「できた!」を生み出します

ご興味をお持ちいただいた方は、
以下の窓口にご連絡ください。

info@waffle-waffle.org

〔団体概要〕

役員	理事長	田中 沙弥果
	理事	利根川 裕太（特定非営利活動法人みんなのコード 理事 会長）
		安部 遥子（株式会社 9 課 代表取締役）
		増井 雄一郎（Bloom&Co., 取締役 CTO（最高技術責任者））
		小島 舞子（一般社団法人 Women AI Initiative Japan 理事、元株式会社クラフター 代表取締役）
	監事	寛角 淳（株式会社ストリーム 代表取締役副社長 / 税理士法人ストリーム 代表社員）
	アドバイザー	村上 明子（SOMPO ホールディングス株式会社 執行役員常務 グループ Chief Data Officer / 損害保険ジャパン株式会社 執行役員 Chief Data Officer）
		小安 美和（株式会社 Will Lab 代表取締役）

住 所 〒105-0013 東京都港区浜松町2丁目3-8 WTC annex 12階

お問い合わせ先 info@waffle-waffle.org
公式ウェブサイト <https://waffle-waffle.org/>



Instagram

@waffle_org



X

@Waffle_org



Facebook

@Waffle.org



LinkedIn

Waffle NPO



Bluesky

@waffle-org.bsky.social

